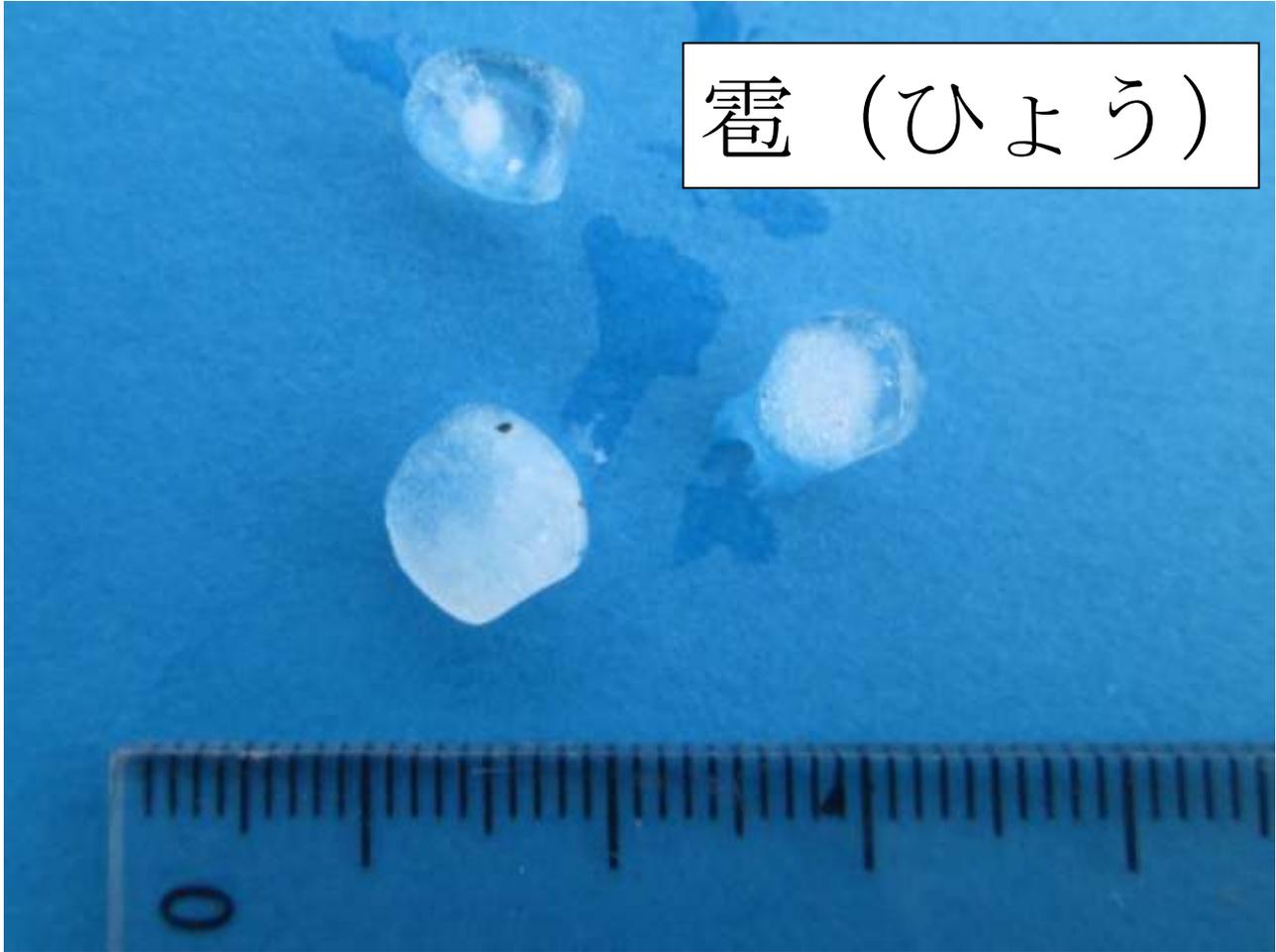


# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年6月13日 NO.25 (125)



## 雹 (ひょう)

それは、6月13日(金)お昼(ひる)の12時ごろのことであった・・・

花ちゃん 「うわあー！空が真っ黒(まっくろ)だわ。カミナリもなって、こわーい。」

オー君 「なに言ってるの。だいじょうぶだよ。あれあれ！雨だけじゃないぞ。」

花ちゃん 「うわあー！氷(こおり)のかたまりもふってきたわ。」

オー君 「雹(ひょう)だ。雹がふってきたんだ。すごいな。おいら初(はじ)めて見たぞ。すごいな。すごいな！」

花ちゃん 「モンタ博士！雹です。雹です。雹がふってきたんです。」

モンタ博士「それは、それは、めずらしいものを見ることができてよかったね。」

オー君 「すごかったな・・・。あ！そうだ。ゴーだ！！！」

花ちゃん 「あれ！オー君、ねえねえ、どこに行くの？」

しばらくすると、オー君が何冊（なんさつ）も本を持ってもどってきたとさ・・・

オー君 「ふむふむ・・・なるほど・・・あ！そういうことか・・・。」

花ちゃん 「どこに行っていたの。ひょうはもうやんでしまったわ。」

オー君 「なあ、花ちゃん。おいらたちは、いつもモンタ博士にいろいろなことを教えてもらうだろう。今日は、雹（ひょう）について自分で調（しら）べたんだ。」

花ちゃん 「うわー！すごいね。それで、ひょうって、雪じゃないし、雨でもない。どうしてひょうっておこるの？」

オー君 「えっへん。まず、ひょうは、超（ちょう）あばれんぼうの積乱雲（せきらんうん）という雲（くも）のしわざさ。」

花ちゃん 「雲のしわざ？積乱雲って、入道雲（にゅうどうぐも）のことでしょ。」

オー君 「まあ、そういうことだけど、きのう、ひょうがふる前に、ものすごいカミナリがなったよね。」

花ちゃん 「そうそう、すごいカミナリだったわ。」

オー君 「そのカミナリ雲のしわざなのさ。雲ができて雨のつぶが落（お）ちそうになると、はげしく上へ上へと空気（くうき）がのぼるんだ。これを上昇気流（じょうしょうきりゅう）というんだ。」

花ちゃん 「それで、それで・・・」

オー君 「上に行くと、冷（ひ）やされて、また落ちそうになって、また上に上がっていくことをくりかえすうちに、氷（こおり）が大きくなっていくんだよ。雹（ひょう）がふるのは、5月6月が一番多（おお）いそうなんだ。」

モンタ博士 「すごい。パチパチパチだ。

オー君には感心（かんしん）

したね。雹を見て、すごいなああひょうだで終（おわ）らずに、どうしてか？なぜだろうと疑問（ぎもん）思って

調べたオー君に花丸・拍手だ。」

